第一章

霊界に関するジャワ人の神秘主義への熟考

第一節　　南海冥府の女王の存在に関する信仰〈11〉

Kanjeng Ratu Kidul Sekaring Jagad（ジャワの神秘主義者の間では南海冥府の女王は、このように呼ばれ敬愛されており、その意味とは「自然の香りがする花になった南海の女性支配者」)はジャワ神秘主義の世界で最も複雑な人物の一人である。宮廷と中部ジャワの人たちの信仰で、その場所に関する最も詳細な解説は長文の専攻論文を必要とする。彼女はジョグジャカルタとスラカルタの王宮の四つの土地の守護霊から成り立っているというだけで充分である。一般的にはジャワの土地、特別にはマタラム王朝の守護神としてとらえられている四人とは、Ratu Kidul（南の女王)、Sunan Merapi（メラピの聖人)、Sunan Lawu（ラウの聖人)、Semar である。Sunan Lawu はマジャパヒトの最後の王であると理解されている。Sunan Merapi は良い霊の王であり、その宮殿は町の北部に位置するメラピ山の頂上にあり、しばしば Eyang Sapujagad とも呼ばれている。Semar はサルタンの精神的指導者と呼ばれる影絵芝居の登場人物である。彼らは一緒になって、国境を定めた。彼らは宮廷の支配権を満たし、サルタンの数々の敵や悪霊を屈服させるために彼らの超能力を結集した。〈12〉

南海冥府の女王も悪い性格を持っているという大衆の一部の誤った考え方もある。彼女が悪い人である一方、効き目のある超能力の源であるという事実はマジャパヒトのジャワ・ヒンドゥー王国の守護神の一人であった Durga（ヒンドゥー教のデウィ)と関係している。この解釈は正鵠を得ていないのは確かだ。いずれにせよ、南海冥府の女王が本当に人間に対して憐憫の情を持っていることを順次いろいろな調査で見ていくのである。一方、悪い性質を持っているのは、しばしば Nyai Blorong と呼ばれる Nyai Rara Kidul あるいは Nyi Lara Kidul(南海冥府の姫)である。この人物は暗黒の頂点に位置する南海冥府の女王の娘と特定されている。

守護霊と四方の精霊とが、神からの権限移譲(kewalinan)に関するイスラム神秘主義の理論では一般的な構成要素になっており、この四方の精霊は超能力者(wali kutub)を助けている。これこそがその理由で、祝宴や厄除けの各種の儀式において、人類のサイクルの中で大きな役割を占めるしばしばジブリル(Jibril)、ミカエル(Mikail)、イスラフィル(Israfil)、イズラエル(Izrail)という四人の天使の名前で呼ばれている。さらに、彼らは疑いもなく天国の住人の一部である預言者ムハンマド

の保証人といわれているアル・クラファ(al-Khulafa')、アル・ラシディン(al-Rasyidin)、アブ・バカル(Abu Bakar)、ウマル(Umar)、ウツマン(Utsuman)、アリ('Ali)の名でも呼ばれており、それ以外にも彼らを通じて、預言者ムハンマドと結びつけるすべての超能力は最終的にそこで終わっている。

南海冥府の女王の神話学もイスラムの要素と結びつけられている。南海冥府の女王の出自の神話に関する説によると、彼女は神話ではヒンドゥー以前のジャワの王国であったGaluh王の姉妹であるとのことである。生誕直後に彼女はマタラム(Mataram)の登場を予言し、ムスリムの王以外には誰とも結婚しないと宣言した。ほかの神話によると、彼女はジャワにイスラムを持ち込んだ伝道者たちに最初に許可を与えたという。

南海冥府の女王はジョグジャカルタのサルタンの妻であり、精神世界のまた現実の世界のあらゆることに対してサルタンに助言を与えると信じられている。サルタンが精霊と結婚しているというクジャウエン(Kejawen=ジャワ独特の宗教)信仰は改革を求める信心深いイスラム教徒たちに批判されている。<13>しかし、ほかのクジャウエン信仰の多数の面は、探すことが可能であるか、あるいはどうしてもイスラムの原理との関係を合法化しなくてはならない。この精霊との結婚の可能性はイスラム神学とイスラムの戒律でもっとも盛んな論点になっている。Goldziher(1981:62-63)は、イスラム神学とその合法化に関する論点になっているとはいえ、人間と精霊との結婚は大衆のイスラム信仰の普遍的な基台になっていると述べている。この問題はマタラムの神話学の歴史上少なくとも二回登場している。もっとも有名なのはSenopati[1]と南海冥府の女王との結婚である。もう一つはサルタン・アグンがメッカでの王族の墳墓群の建設計画に関連するものである。イモギリ(Imogiri)の墓所の管理者による伝承によると、サルタン・アグンは、ムハンマドの墓所の近くに王家の墓地を建設するべくその許可をメッカのサルタンに申請したとのことである。サルタン・アグンがその畏敬の対象にならなかったということではなく、先祖の一人が霊魂であるがゆえに、この申請は却下された。最終的にサルタン・アグンはイモギリに墓所を建設し、メッカに墓所を建設する代わりに礎石の一部をメッカから運び込んだのであった。

[1] 訳者註:マタラム王朝の始祖

社会史と文化の研究者が発見したように、MT. Arifin (2008:1)は、南海冥府の女王が今に至るまでジャワ社会に大きな影響を及ぼしている神秘的な人物であるといっている。(ジャワ島)南岸地域の人たちの伝統的信仰は、霊界の第一守護神として南海冥府の女王を信じて祀っている。東ジャワ州のジェンベル(Jember)のPuger では漁民の守り神として畏敬され、パチタン(Pacitan)では南海冥府の女王の直轄地であると理解されているゆえに南海岸の主として畏敬され、ジョグジャカルタ、バントゥル(Bantul)のパランクスモ(Paramgkusuma)ではジョグジャカルタの王家の守護神の一人として畏敬され、クブメン(Kebumen)のカランボロン(Karangbolong)とプラブハンラトゥー(Pelabuhan Ratu)では、ツバメの巣の採集人たちの守護神として畏敬されている。

著者は、メラピ山付近の住民にとって、南海冥府の女王は、南海とメラピ山(Eyang Sapujagad)とラウ山(Sunan Lawu)の「霊界の黄金の三点」として畏敬されていることをこれに追加することができる。<14>王朝時代から共和国時代に至るまでの支配者たちも南海冥府の女王とつながりを持つことを信じており、それらはウジュン・クロン(Ujung Kulon)[2]、スランディル山(Gunung Srandil)[3]、パランクスモ、カラク洞窟(Goa Kalak)[4]などである。

ジャワ人の神秘主義の体系で、幽界と霊界に対する信仰は主要な骨格の一つをなしている。1896 年の Van Hien による民間伝承の研究で、ジャワ人が奉じる宗教神話学から得られたのは 750 種の「神々」の名であり、仏教の神話を源としているとVan Hien が述べた歴史上の人物からも構成されている 264 種のジャワ独自の神々の名前があると結論付けられた。Van Hien はジャワの神話におけるそれぞれの神々の機能と地位に関する簡単な表を作成し、重要な役割を果たした特別な神の芝居(wayang)の物語の中のいくつかの出来事に関する解説を所々で行っている。(Koentjaraningrat 1994:335)

De Javansche Geetenwereld(ジャワ人の霊界)という題名の Van Hien が編集した本は 1920 年ごろに出版された。この本はその後、骨董と古文書収集家の Capt.

[2] 訳者註:ジャワ島西端にある半島地域
[3] 訳者註: ジャワ島南岸の Cilacap 付近の聖地
[4] 訳者註: ジャワ島南岸の Pacitan 付近の洞窟

R.P Suyono によってインドネシア語に抄訳され 2007 年に出版された。Van Hien によると南海冥府の女王、別名 Rara Wudu あるいは Nyai Gedhe Segara Kidul は生きていた人間から出来上がった精霊に含まれるという。(Suyono , 2007:127)。これを見る限りにおいて南海冥府、Segarasewu 王国、の女王になった同様な幾人かの人物と差別化されていないので、南海冥府の女王の特定における研究において Van Hien はまだ研究不足であると思われる。<15>Van Hien は単に南海冥府の女王が妖怪たちに守られた南海の底にある王宮を所有しているとしか語っていない。この人物は美貌と、いまだかつて一枚の布も身に着けたことのない体の美しさを誇っている。着ることができるのにもかかわらず、着物を着たがらないのであった。しかしながら、彼女を見ることができる人間はいなかった。もし見た人がいたとしても、その人は重罪に処せられたり、金持ちになることを約束させられたり、死後も南海冥府の女王の奴隷にならなければならないのである。

隣村に住んでいて2006年に七日間行方不明になった人と会ったことがあった。彼はメラピ山の東部地域で行方不明になった。三日間帰宅せず、メラピ山の山岳捜索隊を含んだ地元民の捜索の対象となった。七日目に生存はしていたが疲労困憊した状態で、とある崖のところで発見された。健康状態が回復した後、彼は南海の底にある王宮につれていかれたと話した。そこで彼は建物を建てるための強制労働をさせられたが、まだ意識だけはあり、それゆえ与えられた食べ物と飲み物には全く手を触れなかった。この頑固さのゆえに豪華な椅子に座った女性の形をしたものに対面させられ、何を所望するかと尋ねられた。彼は家に帰りたいだけだと答えた。その後、彼は外に投げ出される感じを受け元の体に戻って発見されたのだった。彼の話では七日間とは感じなかった。霊界に二日間いただけと感じられたのだった。これに似た体験はメラピ山付近の住民でたくさん語られており、著者は上記の一人だけしか知らないが、付近の住民によると確かに七日間行方不明になっていたとのことである。

ジャワ社会の一部において、ジャワの土地は散らばった多くの霊界社会の中心地から構成されていて、特別な地域にその中心があるという地理的地域であると信じられている。<16>その一つ一つのグループは各々の長を有し、その長のグループはその上位の長を持っている。ジャワの土地すべて(本来はインドネシア)に

わたり、各々の領地を持つ約229の霊界の支配地になっていると信じられている。

ジャワ社会の信仰の構造で南海冥府の女王は、いろいろな人物の中で最も尊ばれている人たちの一人である。その最初の形は例えば結婚の儀のように南海冥府の女王を尊敬するために特別に作られた Kolak Kencana(モンキーバナナを皮ごとおかゆにしたもの)と呼ばれるごちそうである。上記の儀式で祀られているほかの人物とは預言者ムハンマド、Syekh’ Abdul Qadir al Jalani、Penembahan Senopati、Sultan Agung、Panembahan Bodho、Hyang Antaboga、Abu Bakar、Umar、Utsman、Ali である。(Tjakraningrat, 1977: 81-82)

次に、ジャワ人ムスリムたちがしばしば行う供物の寄進として呼ばれる厄払いの儀式や祝宴は何を包含しているのだろうか?次に著者はこの寄進や厄払いなど儀式について、ジャワ人ムスリムたちの精神面から説明する。

第二節　ジャワイスラムにおける供物寄進という祭事の裏側にある象徴の意味

ジャワ人ムスリム社会にとって、アッラーに対する奉仕と誠実な礼拝の形としての慣習儀礼は、その一部が深い意味を含んだ儀礼の象徴の形をとっている。儀礼の象徴は表現あるいは認識からの生まれ変わり(化身)を構成するとともに「手が届かない実存」という理解は、「とても身近な存在」となる。この儀礼の象徴をもって、アッラーが常に身近にあり常に自分とともにある、すなわち自分の中で「合一化」されたと感じられるのである。慣習儀礼の象徴とは人間としての我々自身が具象化されるか神と分割できない一部としても理解されるのである。

上記の慣習儀礼は、慣習儀礼の祈願祭や厄払いなどそのひとつがubarampe(食べ物の形をとった物質=供物)である。<17>このことは思考や意図、自分を神により近づけるための行為の感覚の現実化となっている。寄進や祝宴、祈願祭などの慣習儀礼を通じて自分自身を神に近づけたいとする努力は、事実、抽象的な性質を有する文化の集積という形である。(Endraswara, 2003:195)。このことは時に超常的交渉の努力として意識されるから、人類の上に存在していると信じられているすべての霊体は悪い方法で接触しないことになる。

ジャワ社会によって実体化した慣習儀礼の象徴と霊的象徴の一部は、神秘的文化の会話の中で融合したジャワ・ヒンドゥー、ジャワ仏教、ジャワイスラムの間の同一化への影響を包含していると言わざるを得ない。上記の諸教混淆としての観察をしばしば伴う「同化」も、ジャワ社会の一部によって khusyu(清らかな段階に至る)と tadharru'(神に対面したときに意味のないものとして人間性を空虚にする)方法で神を礼拝する一部として信じられている、あるいは神に対する尊敬の道徳の一つの形としていうことができる、神秘的な慣習儀礼を実行する際に安息香(kemenyan)を焚くなどの行為としてみられる。

この安息香を焚く行為とは talining iman, urubing cahya kumara, kukuse ngambah swarga, ingkang nampi Dzat ingkang Maha Kuwaos(信念を縛り付ける紐。その炎は命の光でその煙は天国の香りとして全知全能の神に受け入れられるために望まれている)。

上記の目的に注目するがゆえに、ジャワムスリムたちの一部の神秘的な慣習儀礼で安息香を焚く行為、あるいはそれを神秘的な慣習儀礼として導入することはアラブ純粋主義者とも呼ばれる純粋なムスリムに非難されているような多神教徒の行為ではないと理解できるのである。預言者イブラヒムの時代にはすでに安息香を焚く習慣があった。預言者ムハンマドの時代には安息香を焚くことがしばしば「アッラーに好まれる」として言われた芳香を放つものを使うことに替えられていた。安息香にしろ芳香材にしろ、アッラーに自分を近づけるためのものとしてその本質は同じなのである。〈18〉

それどころか、Imam Bukhari とムスリムの物語の真実のハディスに、香水がムハンマドの時代から治療の方法のひとつとして使われてきたとある。

> Anas によると、正しくは預言者ムハンマドが Ummu Sulaiman の家を訪ねてその家で昼寝をしたいと欲した。Ummu Sulaiman は預言者の寝床として皮の敷物を床に敷いた。そこに寝たときに師は大汗をかいた。Ummu Sulaiman はこの汗を集めて香水と混ぜていくつかの小さなツボに入れた。その後、預言者は Ummu Sulaiman に「これは何か」と尋ねた。Ummu Sulaiman は「これは預言者様の汗でございます。私が香水と混ぜました」と

答えた。(Muttafaqun ‘Alaih, al-Bayan, no. 1363)

このハディスは、ak-Bukhari の No. 5809、Muslim の No. 4302、Al-Nasa’i の 5276、Ahmad の第三章 103, 136,221, 226, 230, 231, 287 と第六章 376 ページに物語っている。

ハディスのいくつかの解釈本によると、Ummu Sulaiman はこの預言者の汗と香水を混ぜたものを病気の子供の治療に使ったとある。このハディスは重要な意味を秘めており、まずは二つのことから構成されている。(1)ハディスでは病気の治療とは書いてあるが香水を慣習儀式のために利用することは七世紀の預言者ムハンマドの時代に行われており、師はそれを認めたこと、(2)Ummu Sulaiman は師の汗で祝福されたということである。この件は、信心深い人たちや伝道者への祝福は神秘主義の支持者とイスラム神秘主義者に大変好まれており、師はそれを禁止していないのである。〈19〉

香水は、ハディースの中でこのように戒律の風習で使われるように提案されている。

> Sayidatina Aisyah r. a.は「私は預言者ムハンマドが礼拝前に身体を清めて礼拝用の服を着たり聖地で聖跡巡礼を行う前に禊をするときに、同預言者は体に香水を使ったことがある」と言っている。

ハディスを読むと、入浴後の上記の香水の利用、衣装、巡礼、禊などほぼすべての意味付けはイスラムの善行である。ジャワムスリムの神秘主義を奉じる人たちは、上記の神秘を伴った伝統儀式の象徴であり、行っているいろいろな行動はつまらないことでも非合理的な行動でもないと確信している。この最後の言葉で、嘘つきという問題に入れられるものではない。上記の伝統儀式の裏には、人間を誘惑する悪魔を追い払う一つの努力という意味をしばしば含んでいるからなのである。上記のいろいろな伝統儀式は、人のみならず霊界(jin)からの悪影響を最小化する意図を含んでいる。(Qs Al-Nas 114)

悪魔は炎から上記の物質などを作り出す。(したがって悪魔に従うものたちは地獄に置かれるのである。地獄(neraka)とは「自分自身の火」あるいは「自身で燃え

上がる火」を意味するアラビア語の naruka が語源である。悪意を伴う人間の悪行であるゆえに悪魔は生きて存在する)。それゆえ、それを拒絶する一つの努力としてその火自体を蒸しあげてしまう方法がある。上記のようないろいろな行為と伝統儀式の具体化は、神の力に依存することであり、その神秘化されたもの自体に依存するものではない。<20>

Nasi Tumpeng

伝統儀式の象徴と超自然の象徴の形の中の一部は、いろいろな種類の供物とともにトゥンペン(tumpeng)式が用いられる祈願祭として呼ばれる形である。このトゥンペン自体はジャワ人にとって、ihdinash shirathal mustaquim(わたしたちを正しい道に導きたまえ、開端章第六節)の祈りと適用として metu dalam kang lepeng、まっすぐな道をたどって生きる、の実行となるのである。特別な祈願祭のいくつかの方法で、このトゥンペンは、預言者の教えに従った正しい道をともに進むという意味を持った「預言者のトゥンペン」と呼ばれている大きな目的と味わいを有している。ゆえに供物(おかず)の中には、ingkung と呼ばれる完全に調理されて提供される鶏肉がある。この Ingkung は通常その特徴として「預言者のトゥンペン」に添えられるものである。その意味とは、預言者とともに進む人たちの特徴の一部が inggalo njungkung、ひれ伏すこと、また inggalo manekung、急な自己評価とアッラーに対する賛歌を意味している。

生まれたばかりの子供と結婚式のための厄払いの方法の一部で、ナシ・ウドゥク(nasi uduk)と呼ばれるナシ・トゥンペンが時折使用される。ご飯を炊いている間、調理人たちは禊を行った人たちであり常に聖なる状態にあるがゆえに、ナシ・ウドゥクは本当にナシ・ウドゥー(Nasi Wudhu)なのである。

上記の祈願祭の供物のすべては多数の人たちに提供される前に、委任(本来は願い(陰徳)を込める)されるのである。この委任は、陰徳という形をとって、一般的に同席している長老あるいはイスラム導師という指定された人に慣習儀式の移譲になっている。上記の委任で、この祈願祭がおこなわれる人を含めた祈願祭の意味と開催目的がわかるのである。<21>指名され人が答えた後に、彼はその目的

を有する人からの委任のような方法を実践する意図と目的をいうことでこの行為を始めるのである。そこで初めて伝統儀式が実行される。上記の伝統儀式がイスラムの伝統に同化するゆえに、ジャワ人ムスリムの伝統儀式は一般的にコーランの章やその一節を読んだり神への賛歌、預言者の言葉を独唱することを伴い、上記の伝統儀式に関連する祈りでそれが終わるのである。

第三節　海神祭り(labuhan)の供物:永遠の命に至る象徴と神へ近づくこと

Pisang Raja

ジャワの伝統の慣習儀礼に備える供物の一部はバナナ一房か二房である。そのバナナは pisang raja[5]であり、普通のタイプともちもちしたタイプのどちらでも構わない。

Pisang raja が入手できない時だけはほかのバナナで済ませることができるが、それには一定の優先順位が決まっている。この pisang raja を使うことは、公平で、高貴な心を持ち約束を守る人になるという意味の ambeg adil paramarta berbudi bawa leksana という許された申し入れの祈りの象徴としての意味を有している。Pisang raja pulut の場合は、各種の危険を制限するという異なる意味を有している。

祈願祭が終わった後、その主催者は真ん中に位置するバナナをつかんで取り上げる。端のバナナではない。これは、この現在の世界で生きているということは中間生(era tengah)に存在しているという認識と悟りとして行われるのである。この中間生において、人はまだ自分の希望を十分に有しておらず、神の iradah と qudrah に縛られており、端のバナナはこの儀式の実行者にとって最後の生を意味する。この件で、上記の行為は、すでに行われたことすべてにおいて神が与えた運命に自分自身をゆだねる努力と方法として意味づけるものである。これは fa idza ‘azamta fatawakkal ‘alallh(あなたがとあるものに強い希望を有し、最大限の努力を行ったとき、アッラーに身を任せるのだ)という神の命令に対する行為の形となる。<22>

[5] 訳者註:王のバナナの意味

バナナを祈願祭の供物として利用することは生きる上でのエチケットに関する教えと関係している。祈願祭の実行者がバナナの性質のような人生を送ることをできるようにするのである。常に環境に順応させることでその人はどこでも生きることができるのである。その人の持つすべては人類のために役立てられるのである。人間が賞味する実はたくさんの栄養とビタミンを含んでいる。バナナの葉は食べ物を包んだり、田舎の人にとって雨の時の傘代わりにもなり、最低でも家畜のえさとして利用できる。バナナの茎はタバコの籠になりとともに芸術品の材料ともなる。バナナの株といえども、辛い物でおかゆを作るときの鍋の敷石として使えたり、肥料としても使える。バナナの茎の芯は髪の毛を強くするための化粧水をとることができる。最終的にバナナの株を放置しておくとそれは腐敗して肥料になる。バナナを提供するに際して、祈願祭の実行者が他人を利するうえでの自分の至らなさに気づくことを望まれ、その機能は世界に臨席することである。

バナナ以外に祈願祭の伝統儀式で見られる供物はヤシの実、稲、つる芋と茎芋類、rujak degan[6]、タマリンド(buah asam)、カボス(cam cao)、パインアップル、コーヒーなどの jajan pasar(市場で買えるもの)と呼ばれるものである。この jajan pasar の内容は地域によって互いに異なる。しかし、その本筋は、まずは魂と肉体の安全あるいは霊界に由来することの安全である命の安全のための奉納の儀式として同じであるがゆえに、seratan winadi[7]として呼ばれている。〈23〉

Jajan Pasar (yogyakarta)

Jajan pasar は友好親善の象徴であり繁栄の象徴である。この件は、jajan pasar には果物、子供の食べ物、sekar setaman[8]、紙巻きたばこなどのように、市場がいろいろな種類の商品の場所であることを伴っている。Jajan pasar の中には sat (干上がった)あるいは atus (滴になっておちる)の象徴であるジャワ語で satus と呼ぶ

6 訳者註: ヤシの果肉と汁で作られた甘い飲み物
7 訳者註: 秘儀の意味
8 紅白のバラ、ジャスミン、イランイラン、白木蓮の花びらを集めたもの

「数百」の形をしたお金がしばしばみられる。Satus のお金は人が罪から清浄であるという象徴を意味している。(Endraswara, 2003：199)

すでに見たように、ジャワイスラムの慣習儀式の供物の一つは tumpeng である。すでに述べた tumpeng 以外に、sangga langit, arga dumilah, megono などまだ多数の種類がある。しばしば使われている tumpeng の一つはますますその形が美しくなってきている tumpeng robyong(装飾された tumpeng)である。

その形は円錐形あるいは山のようである。その頂には赤唐辛子がおかれ、その下には赤玉ねぎと葉物と長豆の飾り物が伴っている。Tumpeng の基壇には魚や肉、卵、モヤシ、長豆と野菜の和え物など各種の供え物が満たされている。

Tumpeng robyong は繁栄と平和の象徴である。Tumpeng の頂点は本当の気高さに至るため[9]の、人間の意思の頂点を象徴している。この頂点も超越した性質を持つ神の権威を意図した形を形成している。ジャワ語で meru と呼ぶ山の形をした tumpeng は真実の繁栄を描いているのである。

ジャワの神秘的な伝統において、山から流れ出す水が生命のシンボルとなっている。水は生物を生かすのである。装飾という形をとった植物は、新芽(bakal hidup 生存のための原材料の芽)あるいは自分自身で生きることとして呼ばれている。この生存のための原材料は、白い tumpeng で清潔で聖なる状態であることを象徴している。この生きるための原材料は後日神のもとに戻るから、当然のこととして聖なる状態になくてはならないために、清浄さと安寧あるいは澄み切ったものの性質を得る。清浄さはそれを持って平和裏に神のひざ元に戻る人間の慈光である。〈24〉tumpeng の補助となる供物に関しても各種存在する。そのすべてが場所や地域の状況による需要に合致させられる。上記の供物がこの世界での存在からの人

[9] 訳者註: 涅槃の境地に至る

生の道筋がこの世の後の存在になることを描いているので、その陰影(nuansa)はおなじとなる。供物としてしばしばみられるものは、以下のものである。

a) 種から人間になることの象徴としての鶏卵

b) ヒトの生きている胎児の絵を構成する megana[10]の調味料

c) モヤシのように常に芽生えるヒトの胎児の象徴としてのモヤシ

d) 長豆(ジュウロクササゲ)。毎日の生活において人は常に長く考える必要があり(nalar kang mulur)狭い考えを持ってはならない(mulur mungkrete nalar pating saluwir)がゆえに、十分な認識と慈悲の心をもってすべての事柄や状況に対応することができるようになる。

e) トマト。認識は mad-sinamadan[11]を好み Jalma Limpat Seprapat Tamat[12]になる努力をする行動を起こす。

f) 赤玉ねぎ。十分にバランスの取れた行為

g) 空芯菜(kangkung)。高い位置(linangkung)にある人間として分類されるような人

h) アマランサスの葉(bayam)。人生が ayem tentrem(平和で安全に満たされた)になるのは不可能ではないから。

i) 赤唐辛子(Cabe merah)。最終的に、勇気と神の正義を固く支持するための決心を持つ勇気と、神の名と性質、行為を一つにする勇気を与える

j) Ingkung(鶏の丸のままの料理)。夢を常に n'jungkung(平伏)し常に manekung(欲情をコントロール)することで実現化する。<25>

jenang baro-baro

時々、祈願祭も kakang mbarep adhi ragil(羊水と胎盤)の象徴としての jenang

なるまで炒めてヤシ砂糖などを加えたもので、これと煮

相互扶助、利他の精神(過度の利己的熱望を制限しあうこ
含まれている
できる能力を持った人

baro-baro で補完される。この件は kakang mbarep adhi ragil と呼ばれて知られる四人の兄弟を各人が持っているというジャワ神秘主義の教えに関連している。一方、他の二人の兄弟とは、rah(血液)と puser(臍帯)である。この四人の兄弟はジャワの概念で sing ngemon awak(人間を守り育てる存在)、あるいはイスラムでは守護天使、として認識されている。それゆえ、むげに扱わずに尊敬し、祈願式(wilujengan)には毎回話しかけることが常である。

クルアンで七七[13]と呼ばれている曜日や天などの数の象徴として七色(白、赤、黄、灰色、ピンク、黒、緑)のお粥もしばしば登場する。母親からの種(赤いお粥)と父親からの種(白いお粥)を通じて人間になった象徴として紅白のお粥も存在する。紅白のお粥はハサン・イブン・アリー(Sayyidina Hasan)とフセインの兄弟の性質[14]の象徴を表している。ハサンは聖なる落ち着きを持ち、フセインは真実を堅持する勇者であった。預言者に「天国へ先導する若者」として約束された最も近いこの二人がともに殉教者として亡くなったのである。二人を合わせると Al-insan al-kamil(預言者ムハンマドの尊称)の象徴と一つになるのである。他方、花と水の形をとった供物は常に相関関係にある生涯の象徴である。これ以外に、人間が通過しなくてはならないこの世と最後の審判を伴って、陸(花)と海(水)をアッラーが創造した事実の象徴でもある。〈26〉

しばしば、「祈祷するのなら直接祈祷を行い、物質を使った方法は不必要だ」と純粋なムスリムたちにジャワ人が批判される。ここで物質が意味することは法事と祈願祭の伝統儀式における各種の供物のことである。ジャワ人ムスリムは論理的反論を有している。預言者ムハンマドは ash-shadaqatu li daf'il bala(寄進することは自分を事故や悪行などから守る)というお言葉を述べたことがある。ジャワ人ムスリムは、神に対する各々の祈願において、口頭で祈ったり礼拝をおこなうこと以外に、上記のハディスに従った効能の法事を行うことをこの祈願に伴わせるこの行動においてこのハディスを称賛するのである。上記の法事は後日により、神にささげる祈りの種類に法事の内容を合致させるという特定の意味を持たされる。このように上記の法事や祈願祭は、虚偽、多神教信仰、さらには誤り

[13] 七層の天と七層の地（クルアン 65 離婚章 12 節）
[14] (訳) サウジのムアーウィヤ王国と協定を結んでカリフの争いを平和裏に集結させたことであろう

ではないのである。より実際的に社会のすべての階層で行うことができる預言者の要求を称賛する方法の一つとして存在するのである

第四節　寄進としての厄払い、海神祭り、祝宴の文化

ジャワのムスリムの基礎となっているものの一部は、イスラムの教えによる寄進を行う精神を好むものとしての祝宴(kenduri)や祈願祭を行う伝統を有している。Ensiklopedi Kebydayaan Jawa (ジャワ文化百科事典 2005: 232-233)では、人が神の恩恵を得た後あるいは抱いていた希望どおり成功したがゆえに、それを目的とした人が祝宴をもって食べ物を寄進する儀式があることを解説している。この件では、祝宴は大願成就のお礼と似ている。その方法は個人的な性格を有している。一般的に招待客は、血縁関係者と同僚、隣人である。かれらはいろいろな好みのために集まる。前例となるべきいろいろな手本を伴った有益な話を伴った「なごみ」の雰囲気なのである。祝宴や祈願祭の際の食物寄進のメニューはより自由である。定められた食べ物の義務はほとんどないので、親しい雰囲気、十分な親善の心、いろいろな好みを引き起こし、神への感謝の念を指し示す。〈27〉

ジャワ人ムスリムの伝統儀式における祈願祭の祝宴は重要な意味を持っており、ジャワ人の信仰と切っても切り離せない部分になっている。招待客選びは、一般的に夜間に行われるが、自由である。皆が一堂に会するプログラムがあるときには、普通、その一部は Ashar[15]の後で Maghrib[16]に近い時刻に行われており、さらに一堂に会するのであれば、その後これ以外にIsya'[17]の後に行われ、あるいは Maghrib の後に位置づけられる。

これを開催する場所は、家のベランダかあずまやが利用される。場所が狭い場合にはその前に家具を運び出すのである。例えば、祈願祭はモスクのベランダや家の外の庭をつかうこともある。一般的に提供される料理はいろいろなおかずのついたnasi tumpengであり、感謝あるいは贈り物のような特別な場合のため

15 (訳) 午後三時過ぎの礼拝
16 (訳) 日没直後の礼拝
17 (訳) 夜の礼拝

には尾頭付きで調理された(ingkung)鶏肉のおかずが添えられる tumpeng Rasul(ココナッツのおろしたものを混ぜた塩味の tumpeng で、nasi uduk の一種である)が供される。Ingkung (inggala njungkung =ひれ伏す)という特徴を持って、アッラーに対して完璧に善行を行うことで神の預言者 Rasul の教えに従って正しい道を進むという象徴を有しているために、tumpeng Rasul (metua dalam kang lempeng アッラーの預言者の教えに従った正しい道をたどる)と呼ばれている。正しくは nasi wudu'である nasi uduk は、その調理過程において女性の調理人は、作業開始前に wudu'を行って聖なる状態にあるから、nasi uduk と呼ばれる。これ以外にも、少なくとも air kemasan(ミネラル水)ではない甘いお茶を与え、金持ちはさらにありあわせの料理を提供する。<28>

現代において、例えば誕生パーティーのような特定の祈願祭は時々に、西洋社会で行われているようにパンやバースデーケーキをともなうことがある。上記の提供された食物のすべては、主催者により招待客と近隣住人たちに供せられる寄進として意図されている。(bdk. Koentjaraningrat, 1994: 345-346)

提供されたごちそうは、来客がやってきてそれの周りに胡坐をかいて座った直後に提供される。その後、主催者あるいは代理人が、上記の祝宴の儀式で重要視している事項を述べつつ、ウラマあるいは長老(sesepuh)に儀式を引き継ぐのである。そのあとで、儀式の進行の引継ぎを受けた人は、上記の儀式を実行するに際して関連する主催者が重要視している事項を改めて繰り返す。これ以外にも準備不足や演説の不十分さがあれば許しを請うのである。その直後に、上記の儀式の必要性に関連したほかの文章とともにクルアンのいくつかの章のなかにある聖句を伴った神への賛歌(zikir=dikir)で儀式は続けられる。儀式は、主催者が意図するように祈祷の読誦で終了する一方、招待客たちは上記の祈祷の姿勢のままで両手を捧げてアーミンと唱和する。

祈祷が終わると主催者は、tumpeng 以外の食べ物やごちそうを賞味するように来客に勧める。やがて、nasi tumpeng と全てのおかずは来客に分配される。出席できなかった近隣住民には、その隣人に頼んで彼らにこの分け前を届けるのが一般的である。入れ物が準備されていない場合には、この「神様の恩恵があるご飯」と大衆に呼ばれている祝宴の食べ物を持ち帰るために皿やほかの器

を主催者が貸し出す。

「神様の恩恵があるご飯」と呼ばれているのは、意味と目的という二つの付加された意味合いを持っているからである。まずは上記の nasi tumpeng は慣習儀礼と祈祷の後で提供され、それゆえ一緒に祈祷を行った人たちあるいは上記の料理を飲み食いした彼らに対して与えられるアッラーからの恩恵が期待されるのである。この事情は、お祝いを行った人は幸せがもっと増えるという神の言葉の規定に合致する。一方祝宴は神に対する感謝の方法であるから、主催者と招待客の平安を伴ってさらなる神の恩恵とご利益(pahala)をアッラーが与えるという希望が存在する。

上記の解説から祝宴の眼目は、他人にたいする喜捨としての料理のようなものを施すことを伴ったアッラーに対しての感謝なのである。

他人に何かを施すことは、大変大きな利益を得ることゆえ、イスラム教においてとても勧められている行為となっている。いずれにせよ、Al-Jurjawi の著書にはこう語られている。

> 実にこの disyari' atkannnya hibah(他人に施しを行うこと)は偉大である。心の中に慈愛の気持ちを育成することを伴って妬みや挑発する性質をなくすことができるからである。彼はまた、性格への尊敬、身体の純潔、高貴な性格、大変高貴な尊敬を伴った優秀さを指し示すのである。(Hiikmah al-Tasyari wa Falsafatuh, 124 ページ)

上記の Al-Jurjaw の声明と軌を一にして、Faidh al Qadir, Al-Manawi[18]ではこう言っている。

> 他人に快く食べ物を差し出すものはだれでも、アッラーはこの布施に対して報酬を与える。そしてケチなものはだれでも、アッラーはその人たちに対して恵みを与えるのを差し控える。(Faidh al-Qadir, juz III, 272 ページ)

これを強く勧めていることに含まれているのは、上記のインドネシアイスラム社会において行われている風習である。白飯やお粥、お菓子などの食べられるように

[18] (訳) この二人ともイスラム法学者

なっている食物の形式をとった施しを彼らが互いに与え合うといった点である。それ以外に一般的にはこの風習は預言者ムハンマドの提案を実践することでもある。〈30〉預言者は、他人に食物を与えるために信者に提案したのであった。例えば、近隣の人たちに与えられるように我々が調理する場合に汁を多めにするという提案である。預言者の Hadits の一冊に述べられているようにである。

> Abi Dzarr RA は「預言者は『あなた方がスープを作るときには、水を多めにして、自分たちと隣人たちに分配せよ』と述べている(Shahih Muslim, No. 4785」

この行為も信徒たち(tabi'in)の日常行為になっている。与えられる人がすべてに不足していない人であったとしても、彼らは親友たちに食べ物などの形をとった賞品を快く与えるのである。

> (アラビア人の)al-Arif al Sya'rawi は信徒たちは親戚友人たちに商品を与える習慣を持っていると言っている。彼らは「我々が与えようとしているものをあなた方は必要としていないことを我々は知っている。しかし、我々は関心を持ちあなた方を親友として認知しているあなた方に知ってもらいたいから、これを与えるのである」と言っている。(Faidh al-Qadir, juz III, 272 ページ)

互いに食物などを与え合う伝統は大変推奨されることであると結論付けられる。これは大きな利点を有し、その中で友好親善のつながりの強化がある。

第五節　寄進の概念と前後関係についての預言者ムハンマドの教え

(ジャワで祈願祭、nyadran(お墓の掃除などの儀式)など)の祝宴は預言者ム

ハンマドが指示したものであるのか?その答えは次のように、Imam al Bukhari と Imam Muslim'Shahih Myttafaquan 'Alaihi)によって語られたハディスに存在するということである。〈31〉

> Anas bin Malik r.a.のハディス。とある日、預言者は、はにかんだ顔をし

ている’Abdurrahman bin ‘Auf をみた。その後預言者は「何があったのですか」と’Abdurrahman bin ‘Auf に尋ねた。’Abdurrahman bin ‘Auf は「はい預言者様、本当は黄金 1nawah(銀貨五枚分)の結婚保証金で一人の女性と楽しんでまいりました」と答えた。預言者は「アッラーは幸運を君にお与えになった。そうならヤギ一頭でもよいから結婚披露宴の祝宴を開きなさい」とのたまわった。(al-Bayan の中の HSR. Al-Bukhari-Muslim Hadits 825)

このハディスは、Imam al Bukhari の”al-Byu”章 No. 1908、”al-Nikah” 章 No. 4756、Muslim の”al-Nikah” 章 No. 2556、al-Tirmidzi の”al-Nikah” 章 No. 1014、”al-Birru wa al-Shilah”No. 1856、al-Nasa-i の”al-Nikah” 章 No. 3299, 3300, 3319, 3320, 3321, 3335、Abu Dawud の”al-Nikah” 章 No. 1804、Ibn Majah の”al-Nikah” 章 No. 1897、Imam Malik の”al-Nikah” 章 No. 999、al-Darimi の”al-Ath’amah”No. 1975、”al-Nikah” 章 No. 2107、Imam Ahmad bin Hanbal の第三章 190, 204, 271, 274, 278 ページに見られる。

アラビア語で walimah とはインドネシア語で宴会を意味する。マレーシアとシンガポール版の上記のハディスの解釈本に注目すると、上記のハディスにある aulim という語は全体的に「宴会を催す」という意味に訳されそのような意味を持たされていることがわかる。Kenduri(宴会)という語は、アッラーへの祈祷の後での食事会を意味するペルシャ語の Kanduri が語源である。イランでは、その意味とは、ムハンマドの娘である Sayyidatina Fathimah al-Zahra への礼拝の後の食事会である。

Al-walimah は、縛ることあるいは馬の鞍を意味する al-walmu、al-walam という語幹を有している。その意味は、決心ゆえに背中の部分を縛ることで強化された胸部を強化する紐なのである。(Lisan al-‘Arab, 2003: j.9, 403 ページ)<32>この基本的な意味をもとに、walimah が、友情を再度密着させて強化させる形として、食事を提供するという意味を持つようになった。Walimah あるいはこの食事の提供は、肉親の情や友情の具現に関連したものでありさらに強力になる。だからその時の料理は毎日の食事と異なって特別に料理するのである。

Ibn Mandzur (2003: 9/403)によると、Al-walimah は結婚披露宴あるいは何かの

所有を意味する宴に供される食物として理解できる。その意味は、幸運とともに歓喜の感情がやってこさせる神の御恵みと所有の観点ゆえに、提供される食物は謝意をとしてのものである。Ibn Mandzur は続けて、Al-walimah とは「結婚披露宴とそれに類する宴会の際に寄贈されたかあるいは食事として提供されたすべての食べ物から構成されているもの」だと述べている。Ibn Maddzur も、預言者が娘 Zainab の結婚の際に祝宴や晩餐会をもようしたということを発見したのである。そして、このことは正しく、Imam al-Bukhari の個人史についての話に掲載されている。

> 私は Zainab の結婚披露宴に臨席した。預言者は、パンや肉を多数の人たちにふるまっていた。預言者は客を迎えるように私に指示した。彼らが食事を終わった後、預言者は立ち上がって歩き始めたので私もついていった。その時、二人の男性が楽しそうにおしゃべりをしており、まだ退席していなかった。預言者が妻たちと会うために部屋に入ったとき、師は彼女たちの一人一人にアッサラームアライクムと挨拶した。みんな元気かいと。彼女たちは口をそろえて、「はい預言者様。奥様はいかがお過ごしですか」と尋ねた。預言者は「元気でおります」と答えた後、私とともに戻った。扉まで達した時にさっきの二人の男性がまだ楽しそうにおしゃべりをしていたのが見えた。預言者が戻ってきたのを見た彼らは立ち上がって預言者の家を出て行った。彼らがなぜ出て行ったのかはわからなかった。彼らが帰るように仕向けたのかあるいは彼らが帰るようにとのご託宣が預言者にあったからなのか。私とともに帰ったあと師が敷居に足をかけたとき師は私との間にカーテンを下ろし、その時に「預言者の家には許可を得ないで入ってはいけない」とのごアッラーの宣託があった。(Al-Bayan, No. 826)

上記の話は Imam al-Bukkhari の Tafsir al-Qur'an No. 4419, al-Nikah No. 4773, Al-Usti'dzan No.5769、Muslim の Al-Nikah No. 2565、al-Tirmidzi の Tafsir al-Qur'an NO. 3141&3142、al-Nasa-I の、Al-Nikah no. 3200, 3334、Abu Dawud の al-Ath'mah No. 3253、Ibn Majah の Al-Nikah No. 1898 に出ている。

続いて Ibn Mandzur は、上記の預言者のお言葉に関連して、al-walimah(結婚披露宴)は、屠殺された家畜の所有者たちによって提供された食事として意味づけられる、といっている。それゆえ、預言者の命令である上記の aulim walalu

bi-syatin は屠殺されたものの食物を提供することとして意味づけられる。サウジアラビア付近の伝統では、結婚披露宴のための最小のいけにえはヤギである。

上記のサウジアラビア式の祝宴を、筆者は2006年の聖地へのハッジを行ったときに体験した。Mekah al-Mukarramah の M'had Sayyid 'Abbas di Sari' Sittin で行われた祝宴に筆者は臨席したのだった。一方ジャワにおいて、Sunan Bonang に続く Sunan Ampel の時代から、大多数の庶民の経済的能力の面から検討され、祝宴に供される上記のいけにえに使われるのは鶏か魚であった。〈34〉

この祝宴の伝統儀式はまず、全裸で広い場所(ksetra)で行われる「五つの快楽(pancamakara)」の儀式として知られている、肉(mamsa)、魚(matsya)、酒(madya)、乱交(maithuna)と印相(mudra)の提供の一種の儀式の風習の解決策としてのものである。Sunan Ampel と Sunan Bonang によって上記の儀式はイスラム化され、その地域で、供されるものは、nasi tumpeng、鶏肉、ヤシの種類からつくられた甘いお茶に替えられた。(Sunyoto, 2004: 125-127)上記の儀式は当初、その信者の一人が Adutyawarman 王であった Bairawa-Tantra 派によって行われた。(Moens, 1924)

ジャワにおいて Sunan Ampel と伝道者たちの宴会の執行における変更は、上記の伝統儀式は預言者ムハンマドによって提案された変更であるからでもあったが、単に「五つの快楽の儀式」の変更されたものではなかった。Sunan Ampel 自身はペルシャの Maulana Ishak の子孫であり[19]、そこでは宴会の伝統儀式は強力な宗教の伝統となっており、その後にベトナム南部のチャンパに広まり、その後ほかの伝道者たちと同行した Sunan Ampel によって拡散されて以来、ジャワに広まったのであった。〈35〉

今までかつて議論の余地がなかったアラビア語専門家からの Al-walimah の意味についていろいろな面に注目してみると、アラビア語からインドネシア語あるいはマレー語のいろいろな辞書によれば、aulim という語は walaa-im の複数形の al-walimah から amr(命令)の形であり、インドネシア語-アラビア語辞書では祝宴として意味づけられている。(Munawwir & Fairuz, 2007: 423) 一方、aulama という語

[19] (訳) Slamet Muljana 教授によると Sunan Ampel はチャンパ在住の雲南人の有力者であった彭德強(Bong Tak Keng)の孫で 1445 年にパレンバンに派遣された。ペルシャ人ではない。Maulana Ishak はこの彭德強の娘婿である。Maulana Ishak もチャンパからの来訪者である。

は宴会を催すという意味の walimah からつくられたものである。Kamus(辞書) al-Munawwir では aulam の語は shana'a walimah(宴を行う)、食事会を開く、祝宴として(Munawwir, 1997:1581)、あるいは宴会をしている(al-Qusyairi, t.t.:610)と意味づけられている。

それゆえ、後世の一部のムスリムによって walimah の語が結婚披露宴にだけ適用する意味を与えられたとすると上記のハディスの書かれた背景からはとても遠いことが確かであり、またこの宴会は「善行」とは呼ばれているのではあるが、預言者が提案したことのなかった、預言者の示した正しい道から外れたイスラム改新者の行動とされたこの宴会は拒絶された。その文章が walimat al-'ursi(結婚披露宴)の意味であるなら、これを除くものである。(Munawwir, 1997:915)

このような理解は、預言者ムハンマドの指導からの応用を調査研究したくないという信仰上の高慢さから生まれてきたとともに、同時に信仰上の善行の一部として大衆の文化の現実に対して目をつぶることから生じたものである。

預言者も、祝宴、特に結婚披露宴に招待されたときには、招待客はそれに応じることがよい、と言っている。

> Ibnu Umar r.a.でこう述べられている。「預言者はこうおっしゃられたことがあった。『あなたが誰かを宴会に迎えに行くときはあなたもそれに臨席するのがよい』。」(Al-Bayan, No. 827)<36>

上記のハディスは、Imam al-Bukhari の al-Nikah の章の No. 4775 と 4781、Muslim の al-Nikah の章の No. 2574、ald-Turmidzi の al-Nikah の章の No.1017、Abu Dawud の al-Ath'amah の章の 3246-3250、Ibn Majah の al-Nikah の章の No.1904、Imam Malik の al-Nikah の章の No.1001、al-Darimi の al-Adhaha の章の 1992 、al-Nikah の章の No.2108 、Imam Ahmad bin Hanbal 第二章 20,22,37,61,68,95,101,127,146 ページに出ている。

祝宴への招待において一般人と賓客は区別される慣習はこの当時から既に存在した。このことを預言者は「大変悪いこと」と述べている。

> Abu Hurairah r.a.からの話では、預言者は「悪い食べ物は、金持ちたち

だけが出迎えられて貧乏人は出迎えられない祝宴の食べ物である」と語ったことがあると述べている。出迎えられなかった人は実はアッラーと預言者に対する背命行為を行ったのである。(Al-Bayan, No. 828)

上記の物語は Umam ak Bukkhari による al-Nikah の章の No. 4779、も Musli による al-Nikah の章の No.2582、Abu Dawud の al-Arh'amah の No. 3251、Ibn Majah の al-Nikah の章の No.1903、Imam Malik の al-Nikah の章の No.1002、al-Darimi の al-Arh'amah の No.1977 に出ている。

このようなことで、(上記の'Abdurrahman bin 'Auf に対する預言者ムハンマドの物語の前後関係はどうであれ)祈りと感謝の後で食事をとるという形で寄進として目されいろいろな好みに合わせて同じように分配された食べ物を提供する形でジャワ社会の伝統にある祝宴は預言者ムハンマドの教えと軌を一にしているのである。上記の物語においてその walimah(祝宴)は「屠るのがヤギ一頭であったとしても」と確かに述べている。<37>例えば、アラブ社会では、ヤギを 200～700 頭所有していたとしても金持ちとは評価されない。それゆえ、上記の物語の意味は「実力に合わせただけで(見栄を張らずに)祝宴を行う」ということである。そして上記の宗教の教えは、ジャワのムスリムによって祝宴、祈願祭、祈願式、先祖のお墓参り(pesadranan)とこれらに類する形で表現されている。

このように、祝宴、祈願祭、祈願式と名付けられているものは一般的に大罪や背教、不信心と言うことができないことがわかるのである。目的がどうであるかまた何を実行についての理解によるのである。ジャワ人にとって、これを行うことのすべては、目的ではなく、行われたことが安全をもたらすという確信によるものでもない。これらすべては、アッラーが人間に恩恵と平安を与えるようにアッラーとの関係の仲介役としてのみ行われる。

第六節　ジャワ人ムスリム環境下での祭事と海神祭り

調和をもって行われるジャワイスラムの伝統がどのように代表されるかということを著者の居住地の社会の風習をよく調べた。上記のジャワムスリム社会においては、

泉とメラピ山に関係した海神祭り(laungan[20]あるいはlabuhan)を含んだ毎年21回行われる祝宴と祈願祭がある。公共の性質を備えた上記の21種類の祝宴は社会の構成員すべてによって大々的に行われる。ゆえに、人生のサイクル(誕生・結婚・死亡)と関連して行われている各種の祝宴や祈願祭と、収穫感謝祭や雨ごいなどの特別なものは含まれていない。以下の表は、伝統的なジャワムスリム社会の伝統的な傾向となっている(一般的には地方の農村部の集落におけるジャワムスリムで変わらずにおこなわれている)祈願祭や祝宴というあらゆる形式への著者の記録である。

No.	実施日[21]	主要な供物	意図と目的
1.	Suro 1日の晩[22]	野菜のおかずと各種の揚げ物を伴ったNasi tumpengあるいはnasi ambeng[23]	新年の記念と年齢を加えられたことのアッラーへの感謝
2.	Suro 8日の昼	Bubur manggul[24]	ノアが洪水から助かったことの記念と感謝。今に至るまで人類を守ってきてくれたことへの敷衍
3.	Suro 10日	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽、pisang raja,とjajan pasar	Yaum al-anbiya 記念日（預言者たち[25]の日)。人類に高貴な指示を与えてくれた預言者たちの存在と安全に感謝して祝う。
4.	Suro 27日の晩	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽	SoloとYogyaで訴えられたK. Sirojの記念日
5.	Safar 月の Kliwong 火曜日の晩	海神祭り	村人による祈願式
6.	Safar 月の Kliwong 火あるいは金曜日の昼間	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽、pisang raja,とjajan pasar	人間にとっていろいろな泉(生活用水)を恵んでくれたことに対するアッラーへの感謝
7.	Safar の月の Pahing の金曜	Rempah apem, kue pasungの種類	スラカルタと周辺部にイスラムを広めた功績のあるKi Ageng Gribig (Jatinom)の祥月

20 (訳) Laugnanは表末の写真参照。
21 (訳) すべてが太陰暦のジャワ歴によるので、太陽暦にすると毎年11日ほどずれる。
22 (訳) ジャワでは一日が夕方から始まるので、日本風に言うとSuro月のついたちの前夜ということになる。
23 (訳) Nasi ambengは表末の写真参照。
24 (訳) Nasi ambengは表末の写真参照。
25 (訳) イスラムではムハンマドのみならず、旧約聖書に登場する人物たちも「預言者」としている

	日の晩		命日
8.	Safar の月の最後の水曜日の晩	いろいろな味付けの揚げ物と野菜を伴った Nasi tumpeng	天使などの形をとって人類に対するあらゆる加護を与えたアッラーに対する感謝という Rebo Wekasan の記念
9.	Rabi ul awal の月の 12 日の晩	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽と黒大豆	ムハンマドの誕生祝いとその時の特別な本の読誦
10.	Rabi ul awal の月の 12 日の昼	Nasi tumpeng、野菜、各種のおかず、jajan pasar	預言者ムハンマドの誕生記念で、その来訪を祝い、アッラーへの仲介を申し出る
11.	Rabi'utstsani の月の 12 日	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽と黒大豆	ジャワのムスリムの精神的象徴の一人である Syaikh 'Abd al-Qadar al Jilani の威光
12.	Rajab の月 27 日の晩	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽と黒大豆	五回の礼拝の伝統が生まれたムハンマドの Isra' mi'raj の記念と祝い
13.	Sya'ban (Ruwah)の月 15 日の晩	Nasi tumpeng、ココナツ味付け野菜、各種の揚げ物。この行事は Punggahan と呼ばれる。	一年間の善行の記録を天に上げる夜としてジャワのムスリムに信じられている。この行為の記録をアッラーに良くしていただきその信仰心を受け入れてもらう。
14.	Sya'ban (Ruwah)の月 15 ～27 日	Jajan pasar, 各種のおかず、果物	大衆の墓地付近の講堂あるいは広場での Pesadranan の祝宴。習慣儀礼の Pesadranan の後で、各家に親善訪問する
15.	Ramadhan の月 17 日の晩	Nasi tumpeng、野菜のココナツ煮、各種の香辛料。	ムスリムたちの生活の規範としてのクルアンを下された記念とお祝い
16.	Ramadhan の月 21 日の晩	Nasi tumpeng、野菜のココナツ煮、rempah2an 各種の香辛料。	Selikuran の祝宴。地獄の火から逃れられる itqun minannar の始めとしてのプアサが最後の十日間に入ったことへの感謝
17.	Ramadhan の月 27 日の晩	Nasi tumpeng Rasul、鶏一羽と黒大豆	Lailatul qadar[26]の祝い。Lailatul qadar の権威を通じてムハンマド(insane kamil)の一部なりうるように聖蹟を与えられるように願う。
18.	Syawal の月 1 日の晩	Apem[27]と ketan[28]など。Pudunan と呼ばれる	29/30 日間のプアサを終えた感謝と祝賀。これこそがアッラーの慈悲と許しが下りた晩。
19.	Syawal の月 1 日の Id の礼拝の後	Nasi ambeng と卵焼き	Lebaran が来たお祝いの印とこの日はプアサをしてはならない象徴としての祝宴
20.	Syawal の月の 8	Ketupat[29]	8 日間続いた「レバラン親善週間」終了の

26 (訳) クルアンの最初の章が下された夜。
27 (訳) Apem は表末の写真参照
28 (訳) Ketan は表末の写真参照
29 (訳) Ketupat は表末の写真参照

	日		lebaran ketupat のお祝い
21.	Dzulhijjah の月 10 日	Nasi tumpeng と rempah2an 各種の香辛料。	ハッジの祈願祭
22.	Dzulhijjah の月 10 日 Idul Adha の礼拝後	Nasi Ambeng と野菜、卵焼き	ハッジの祝日と犠牲祭記念。ハッジと犠牲の恩恵を得られるようにアッラーに祈る。

訳者註：中部ジャワに住んでいるジャワ人のムスリムに尋ねても、上表に記載されている一部の儀式については知らないという人が多かったところをみると、上表にあるものの一部は著者の居住している地域だけで行われているものなのかもしれない。

Larung Sesaji

Jajan pasar

Nasi Ambeng

Bubur-Manggul

Rempah Apem

Kue_Apem

Kue Pasung 円錐の部分が「足枷」なのか

ketan-urap

Ketupat

〈40〉

一方、人生の節目に関連した祈願祭、祈願式、祝宴は大体次のようになっている。

No.	節目	祝宴の名称	開催日
1.	誕生	Ngupati あるいは Ngapati	妊娠 120 日(4 か月)
2.		Nglimani	最初の妊娠 5 か月目
3.		Mitomi あるいは Tingkeban	妊娠七か月目
4.		Nyangani	最初の妊娠 9 か月目
5.		Brokohan	生誕日の祈願祭
6.		Sepasaran	生誕五日目。命名と一般的にはヤギを犠牲にして bancakan[30]と祝宴を開く
7.		Puputan	へその緒が落ちた祈願祭
8.		Selapanan	生誕後 35 日目。乳児の健康を祈る日。一般的には bancakan と祝宴を開く
9.		Tedhak Siti	生誕後 245 日(7(lapan) x 35 日)。子供が正直で善行を行い、勤勉で、慈善家で、勤労意欲が高くなるようにとのアッラーへの祈り
10.		Setahunan	満一歳の誕生日
11.	結婚	Kumbakarman	婚姻の儀の実施に係るすべての件について合意ができた後。一般的には、結婚式を行う家で七日前に行う。
12.		Pasang Tarub	儀式の前日か前々日に儀式の会場の準備のために行う。
13.		Midadareni と Majemukan	夜間に行う伝統儀式と祈願祭で tebusan kembar mayang[31]も行う。
14.		Selamatan Walimahan	
15.		Sepasaran Manten	Ijab Qabul 結婚式の後に行われる祈願祭
16.	死亡	Surtanah	神のもとでよい地位を占めるように願う、埋葬後の伝統儀式
17.		Nelung Dina	神の元へ明るい道を得るようにアッラーに許しを請うための死後三日目に行う祈願祭
18.		Mitung Dina	初七日の祈願祭(法要)。霊が神の元へ明るい道を得られるようにと祈る。
19.		Matang Puluhan	40 日におこなう法要。一般的にはクルアンの全読を伴う。死んだ人の霊がその善行によってアッラーに受け入れられることが目的。
20.		Nyatus Dina	百箇日の法要。目的は上記の 40 日目の法要に同じで、肉体を純粋化する目的も有する。
21.		Mendhak Pisan	祥月命日の目的は死者の霊への許しを請うため。骨以外

30（訳）ジャワの通過儀礼のひとつ。参考資料参照
<https://sabdalangit.wordpress.com/2009/11/04/tata-cara-bancakan-weton/>
31（訳）ジャワの通過儀礼のひとつ。参考資料参照
<ttp://kesolo.com/makna-kembar-mayang-dalam-pengantin-jawa/>

			のすべての要素を純化する意味も有する。
22.	死亡	Mendhak Pindho	二回目の祥月命日。肉体の全ての要素から感覚と匂いを消すことで純化する意味もある。
23.		Nyewu Dina	死後千日目の法要
24.		Haul (Kol)	毎年亡くなった月に行う死者への記念祭。来世で霊が安全に過ごせるようにとの祈願を伴い、すべての罪を許してもらえるように祈ることがその中身である

定期的な祈願祭や人生の節目に関連する上記の祈願祭以外にも、常に行われている伝統儀式の祈願祭には次のようなものがある。

1. Merti Desa: 毎年実施される村民全員が一緒になって行う村の安全祈願祭。この伝統記念祭で、一般的にKanjeng Ratu Kidulが最高の席を占め天使の一部となり、地球の平和を守るためにアッラーの使命を任せられたDewe Sriの呼び名と並ぶ。

2. Pai Anyar: 農業で大きな収穫を得た後で行う祈願祭。(現在では会社の創立記念日や商工業の安全祈願として発展している)

3. ジャワ人ムスリムも、すべての神からの恩恵に感謝すべく行われる感謝の祝宴を開くことが通常化している。それゆえ、現在では、卒業、就職、昇進などの祈願祭あるいは寄進の伝統儀式となったものが多い。

ゆえに、祈願祭や祝宴の伝統儀式は、その主催者が何を意図しているかによって、いろいろな機能を有しているのは確かである。〈42〉主たる目標ではっきりしているのは、自分自身を神により近づけることを伴う祈りと霊的な表現であるということである。

第七節　南海冥府の女王研究へのアプローチ

上述のいくつかの解説に注目すると、ジャワ社会の信仰となったいくつかの点を研究した記事の中で、科学の知識への接近を利用するだけでは行うことができなくなったものがある。ジャワ社会の伝統儀式の応用の裏にある何かについて知ることができるためその理論は大変必要とされている。

幽体に対する信仰を見る上で、我々が五感を使っている間の霊界の存在は、幽体の形をとった性質を持つ一つの現実であるがゆえにそのすべての幽体は我々起源なのである。このことで、Ratu Kidul(南海冥府の女王)が個性を持った、社会的、政治的、文化的な命を持ち、歴史的発展を有する環境の存在で、霊界の人物として理解されうるのである。

この意味においてこそ、社会と神秘の学者の MT. Arifin (2008)は、彼らの知識の源として霊界自身での人物たちの情報提供者とともに、霊界との交信という形を通じて知識を得る研究、専門家の指導に直接に存在するということの「塩水」への接近が必要だと説いている。霊界や神秘主義の言葉で、この件は霊と霊との間の庚申を構築する方法のひとつであるチャネリングという方法を通して行うことができる。

確かに「塩水」の方法以外に得られた知識をより完成した形にするために、淡水の方法、すなわち特殊な方法を持つとある思想グループ内の師匠のコミュニティーの元での組織的な知識の探索と概念とを通じた知識の獲得、もまた必要とされるのである。

これよりずっと前に協調しておかなくてはならないことは、この期間ジャワ社会において本当の Ratu Kidul 自身に関して少し誤解が存在していることなのである。Ratu Kidul は女性として認識されている。しかしながら Ratu Kidul とは本当は、大統領のような職責であるからして、Ratu は女性でなければならないことはなく時には男性である。現実的には大多数が確かに女性となっている。

第一章訳出終了 2016/4/13